

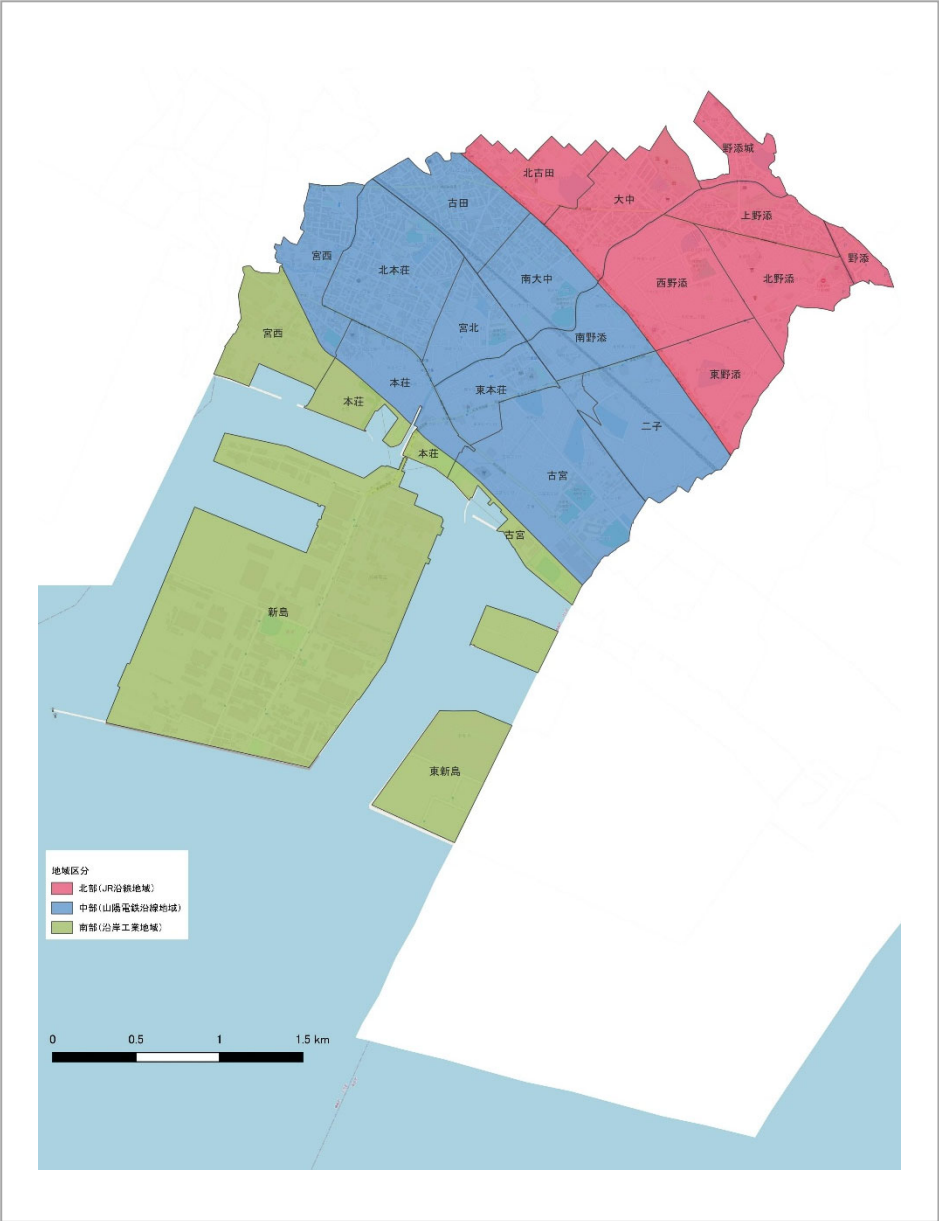
令和 6 年度 第 1 回磨町都市計画マスタープラン及び立地適正化計画検討委員会 意見とその対応案

No.	主な意見	意見に対する考え方、対応案	資料等への反映
1	・市街化調整区域を市街化区域にするには、隣接する加古川市と明石市との連携が必要ではないか。	・西側の北古田周辺は令和 5 年度より庁内で検討を着手しており、令和 6 年度より地域に入って住民説明会などを開催し、地権者とともにまちづくりの検討をはじめたところである。東側の東野添については、まずは西側（北古田）の状況をみながら方向性を考えていきたい。（回答済） →市街化区域編入の方向性について都市計画マスタープラン（以下、「都市マス」という。）において記載する。記載内容についてはまちづくりの進捗を踏まえて判断する。その際、隣接市における方向性も確認し調整を図る。立適での記載は都市マスに合わせる。	令和 7 年度の委員会資料に反映し協議予定。
2	・この委員会は何の話をするものなのか。都市計画税を維持するための税金のあり方を話すのか、人口を増やすためのまちづくりを話すのか、具体的な道路を広げたり明るくするといった話をするのか。	・幅広く意見をいただきたい。その意見を立適で受けるか令和 7 年度検討する都市マスで受けるかは、事務局で整理する。（回答済み）	—
3	・資料 1 P14 の評価指標と目標数値について、評価指標を他の自治体と同じようなものにする、播磨町では目標が今とあまり変わらないかもしれない。都市基盤として何を重要視していくのが評価指標に表れるので、これをどう設定するのか議論していきたい。	・播磨町ならではの評価指標を考えていきたい。（回答済み） →もともとコンパクトな町域、かつこれから人口減少が進んでいくなどの町の特性を踏まえつつ、立適策定の目的に即した評価指標を検討する。	令和 7 年度の委員会資料に反映し協議予定。
4	・地域コミュニティの希薄化が進んでいると感じる。以前は近所付き合いが活発だったが、最近はその減少している。解決策はあるのか。	・今すぐに解決策を出すことはできないが、これからの地域コミュニティの課題は、都市づくりの観点も持っておかないといけないと認識しているので、どうしていくのか考えていきたい。（回答済み） →地域コミュニティ維持の基本となる人口の確保（居住誘導）のほか、屋外空間において世代間交流を育むふれあう機会をつくる仕掛け（ベンチの設置、歩きやすい空間づくり）などについて検討する。	【資料 1】2. (3). ①に反映。引き続き検討。

No.	主な意見	意見に対する考え方、対応案	資料等への反映
5	土山駅西側の踏切の安全対策、土山駅周辺における渋滞の多発や道路の狭さ、役場前の道路（県道本荘平岡線）の暗さなどの交通問題を解決する必要がある。	- 県や地元とも協議しながら個別に対応していく。（回答済み） →状況を確認し、どこまで具体的内容を計画に落とし込むかを検討する。関係課等と調整したうえで対応策を都市マスに記載するのか、立適においても誘導施策に位置付けるかどうか検討する。	【資料１】2. (3). ②及び④に反映
6	播磨町駅利用は役場利用が多いということだが、交流を生み出そうとする都市マスでの拠点の位置づけと少しずれがある。土山駅周辺は今地元含めて検討が進んでいくと思うが、播磨町駅周辺ではどのようなビジョンを持っているか。播磨町駅周辺は公共施設がたくさんあるので、公共施設の更新とかも含めて計画にどう位置付けるのかが重要だと思う。	- 役場周辺では高齢化が進んでいる。また、比較的商売をしやすい近隣商業地域が指定されているが、それにふさわしい土地利用がなされていないという問題を踏まえ、行政施設が立地しているという特性を活かしながら考えていかなければならないと思う。 →課題に播磨町駅周辺の拠点形成のあり方を追加する。	【資料１】2. (3). ③に反映。
7	アンケート調査報告書を見たが、もっと細かい地域でここはどういう課題や要望があるのかなどを見ていくことが大事だと思う。	- 都市マス地域別構想の北部、中部、南部の３区分を考えていたが、それで良いのかという議論は事務局内でも出ている。どこまで踏み込めるか考えていきたい。 →立適の特徴を鑑み、大字ごとの各駅の利用頻度を住民アンケートの結果から集計し、町内のどちらの駅勢圏に属するかを分析した結果、明姫幹線を境目として土山駅と播磨町駅を利用する頻度が異なっていた。これに工場が集積している都市計画道路二見尾上線以南を区別し、明姫幹線以北の北部、明姫幹線～二見尾上線の中部、二見尾上線以南の南部の３地域で検討を進めたい。（現行都市マスと同様）また、地域区分名については、現行記載を残した上で括弧書きで、より分かりやすい地域区分名（JR 沿線地域など）を併記する。	令和７年度の委員会資料に反映し協議予定。

No.	主な意見	意見に対する考え方、対応案	資料等への反映
8	・一般に立適はまちをコンパクトにしていこうとするものだが、播磨町が向かおうとしている状況としては市街化調整区域を市街化区域にする方向であり、立適の考え方とは矛盾する。他の町とシチュエーションが違っているので、立地適正化自体の使い方も違うと思う。その辺のある意味矛盾を含むストーリーをどう考えていくか検討していきたい。	・播磨町の立適は、まちを縮小させていこうとすることに主眼を置くのではなく、もともとコンパクトなまちであることなどの特性を生かしながらまちの魅力向上を図ることで町の持続可能性を高めていこうとすることを目的に作成するものである。 →幹線道路整備に伴う周辺地域の土地利用ニーズの高まりに対し、土地利用を進めることで地域の活力創出を図り、町の持続可能性を高めていく、というストーリーが考えられる。	【資料１】3. (1) 及び (2). ②に反映。引き続き検討。
9	・どういった空間の範囲で考えるか、加古川市、明石市、稲美町と近隣市町での圏域があったうえで播磨町が成り立っており、播磨町だけで完結できる話ではない、といったことを前提にどのような視点で何を考えるかを議論する必要があるということである。	・非日常的な買い物や通勤・通学の面で、周辺市との結びつきが強いことがアンケートより判明している。 →周辺市との機能連携を課題の一つとして盛り込んでおり、主に広域的な都市機能に関してどのような連携が考えられるかを検討する。	【資料１】3. (3). に反映。 都市構造図でも広域連携軸（鉄道）、商業拠点を反映。
10	「歩きやすい、歩きたくなる環境づくり」の具体的なイメージはあるのか。	・例えば播磨町駅は歩ける範囲に行政施設が集積するエリア、土山駅は歩行者によって賑わい生み出すエリアなどにするほか、住民の方以外も町内を巡って頂けるような都市づくりを考えたい。 →コンパクトさを活かし、歩道や休憩スペースの確保等や、自動車を使わずとも移動ができる環境づくりの検討。	【資料１】2. (3). ②に反映。引き続き検討。

住民アンケートに基づく駅勢圏の分析結果



都市計画マスタープランにおける地域区分

第5章 地域づくりの方針

前章の「都市づくりの方針」を受けて、「地域づくりの方針」では、地域の住民に身近なまちづくりに焦点を当て、地域ごとの将来像を設定するとともに、その実現に向けたまちづくりの方針を取りまとめます。

1 地域区分の考え方

土地利用や地形地物の状況、コミュニティの形成状況等を考慮し、地域区分を行います。本都市計画マスタープランでは、内陸部のほぼ中心に位置し主要な幹線道路である国道 250 号（明姫幹線）、および住居系用途地域と工業系用途地域の境界となっている二見尾上線（未整備）を用い、播磨町を以下の 3 地域に区分し、それぞれの地域づくりの方針を定めます。

名称	区域
北部地域	国道 250 号（明姫幹線）以北
中部地域	国道 250 号（明姫幹線）以南、 二見尾上線以北
南部地域	二見尾上線以南



図 地域区分